

審査を通して
感じたこと

藤岡 敦
(システム理
工学部数学科)

内容

自己紹介

動機付け

審査の実際

審査を通して感じたこと

藤岡 敦
(システム理工学部数学科)

2017年3月16日(木)
平成30年度採用分 日本学術振興会 特別研究員 学内説明会

内容

審査を通して
感じたこと

藤岡 敦
(システム理
工学部数学科)

内容

自己紹介

動機付け

審査の実際

- ① 自己紹介
- ② 動機付け
- ③ 審査の実際

専門分野と略歴

審査を通して
感じたこと

藤岡 敦
(システム理
工学部数学科)

内容

自己紹介

動機付け

審査の実際

専門分野：数学

- 1990年 東京大学理学部数学科卒業
- 1992年 東京大学大学院理学研究科修士課程修了
- 1996年 東京大学大学院数理科学研究科博士課程修了
- 1995年 日本学術振興会特別研究員
- 1997年 金沢大学理学部助手
- 2000年 金沢大学理学部講師
- 2003年 一橋大学大学院経済学研究科助教授
- 2007年 一橋大学大学院経済学研究科准教授
- 2012年 関西大学システム理工学部教授

平成27年度特別研究員等審査会専門委員（書面担当）表彰

外部資金と審査経験

審査を通して
感じたこと

藤岡 敦
(システム理
工学部数学科)

内容

自己紹介

動機付け

審査の実際

科学研究費補助金（研究代表者となったもの）

1998年度～1999年度	奨励研究 (A)
2000年度～2001年度	奨励研究 (A)
2002年度～2004年度	若手研究 (B)
2006年度～2009年度	基盤研究 (C)
2010年度～2013年度	基盤研究 (C)
2014年度～2017年度	基盤研究 (C)

審査経験

2013年～2014年	科学研究費委員会専門委員
2014年～2016年	特別研究員等審査会専門委員 (書面担当)

お断り

審査を通して
感じたこと

藤岡 敦
(システム理
工学部数学科)

内容

自己紹介

動機付け

審査の実際

○ 担当した審査

対象：PD

分科名：数学

細目名：幾何学

○ 分野によっては当てはまらないことを話すかも

- 研究業績として認められるものは主として査読付き欧文雑誌に掲載された学術論文
- 修士課程修了時点で研究業績があるのは稀
- 複数著者による論文の著者名はアルファベット順が多い

研究者の研究資金

審査を通して
感じたこと

藤岡 敦
(システム理
工学部数学科)

内容

自己紹介

動機付け

審査の実際

○ 大学等に所属する研究者の研究資金

- 競争的なものとそうでないものがある
- 競争的でないもの：所属機関からほぼ自動的に支給される
十分とはあまりいえない

- 競争的なもの：「応募→審査→採択」という過程が必要
実績や成果の報告も求められる
科学研究費補助金など外部の機関から支給
されるものは競争率が一般的に高い
外部の競争的研究資金の獲得状況は人事の
際にも参考にされる

⇒ 競争的研究資金に関わる様々な手続きには早いうちに
慣れておいた方が良い

特別研究員への応募はとても良い機会

特別研究員に採用されることによる利点

審査を通して
感じたこと

藤岡 敦
(システム理
工学部数学科)

内容

自己紹介

動機付け

審査の実際

- 採用されることによる利点
 - 研究費：DC1、DC2、PD は毎年度150万円以内
主体的な研究が行いやすくなる
 - 研究奨励金：DC1、DC2 は月額20万円
PD は月額36万2千円
 - 研究歴に加えることができる
- 採用されなかったとしても…
 - 自分の研究を改めて見直す良い機会
 - 次の機会があれば挑戦すべき

審査方針

審査を通して
感じたこと

藤岡 敦
(システム理
工学部数学科)

内容

自己紹介

動機付け

審査の実際

- DC1、DC2、PD に共通して求められるものは次の3点
 - 能力、将来性
(学術の将来を担う優れた研究者となることが十分期待できること)
 - 研究業績
(研究業績が優れており、研究計画を遂行できる能力及び当該研究の準備状況が示されていること)
PD では特に重要
 - 研究計画
(研究計画が具体的であり、優れていること。)
- これらのことが審査員にきちんと伝わるように上手くアピールすること

書面審査の概略

私の場合

審査を通して
感じたこと

藤岡 敦
(システム理
工学部数学科)

内容

自己紹介

動機付け

審査の実際

○ 第一段階

- 審査完了の締切までの間でまとまった時間がとれる日を作り、できるだけ審査に集中する
- 申請書を一通り読む
- 「能力、将来性」、「研究業績」、「研究計画」について、それぞれ5段階で評価
- 「研究業績」の比重を1.5倍にして総得点を計算
- 審査コメントを暫定的に記入

○ 第二段階

- 総得点を定められた相対評価の比率に合わせる
(評点5 : 10%、評点4 : 20%、評点3 : 40%、
評点2 : 20%、評点1 : 10%)
- ボーダー付近の申請書を中心に比較しつつ読み返す

相対評価

審査を通して
感じたこと

藤岡 敦
(システム理
工学部数学科)

内容

自己紹介

動機付け

審査の実際

- 評点が1や5となる申請書は決定しやすかった
- 審査コメントには長所も短所も書かなければならないが、評点5の申請書については短所を書くのはやや厳しい
- 採用されるには多くの審査員から高い評点をもらう必要があると思われる
- しかし上位で採用される人は大学等に就職する可能性も高い
- 就職等のため辞退する人もいるであろうから、多少自信がなくても諦めないほうが良い
- 「研究業績」については比較的客観的に評価可能
- 「能力、将来性」、「研究計画」については申請書の書き方によって良くも悪くも評価されうる

評点5の審査コメントの例

平成27年度採用分から

審査を通して
感じたこと

藤岡 敦
(システム理
工学部数学科)

内容

自己紹介

動機付け

審査の実際

- 全てにおいて抜きん出ている。広範にわたる専門的知識や高いコミュニケーション能力を持ち、分野を超えたリーダーシップを取っていく可能性も感じられる。また、専門外の対象へも貪欲に取り組もうとする姿勢は素晴らしい。出身大学の研究者を受入先としているが、既に共同研究も行っており、ベストな選択かもしれない。
- 業績、将来性、コミュニケーション能力など全てにおいて、高いレベルにあると認められる。また、受入研究室で研究することにより、研究の幅が更に広がることも期待される。顕著な業績は共著によるものであるが、評価書によれば…とあり、主結果についての役割分担についても明確に述べてほしかった。

評点5の審査コメントの例

平成28年度採用分から

審査を通して
感じたこと

藤岡 敦
(システム理
工学部数学科)

内容

自己紹介

動機付け

審査の実際

- 査読付き学術論文はオンライン発行されたものが1本、採録決定されたものが1本で、どちらも質は高い上、現在投稿中の論文も存在する。現在までの研究状況やこれからの研究計画は非専門家に対してもとても読み易く書かれており、専門知識の確かさや独創性ももちろん窺うことができる。…に強い受入研究者の下へ移り、周りの多くの研究者や院生達と交流することで良い相乗効果を強く期待できる。
- 査読付き学術論文は1本のみであるが、採録決定されたものが2本とプレプリントが5本存在する。順調な研究成果を挙げていることが認められるが、今後は海外のしかるべき学術雑誌への積極的な投稿も期待したい。申請者は…に加え…にも深い専門知識と技量を有しており、日本でまだそれほど層が厚くない…の分野で今後リーダーシップを取っていく可能性を秘めている。

まとめ

審査を通して
感じたこと

藤岡 敦
(システム理
工学部数学科)

内容

自己紹介

動機付け

審査の実際

- 研究者を目指す人は特別研究員に
応募すべき
- 書き方の工夫次第で採用に近づく
ことが可能
- 採用されなかったとしても諦めない